

医学部長退任および理事・副学長就任挨拶

琉球大学大学院医学研究科 麻醉科学講座 教授 須加原 一 博



これまで、医学部附属病院長として3年間、医学部長として2年間たいへんお世話になりました。それぞれ副院長や病院長補佐、副学部長および事務部長、総務課長はじめ事務系の皆さん

にも支えられ何とか責務を果たすことができました。心からお礼申し上げます。

さて、振り返りますと、平成23年4月1日に医学部長に就任し2年間山積するいろいろな問題に皆さんのご支援を得て何とか対応してきました。同窓会の皆さんのご支援に厚く感謝いたします。

その年度始めの挨拶では、先ず、第1が**医学科のカリキュラム改革**です。折角希望に燃え医学部に入学したのに、共通教育で高校と余り変わらないことが少し問題だと考え、「**基礎・臨床の融合**」で、一年次から日本一のシミュレーションセンターを利用した臨床症例の検討を取り入れるように指示し、本年度4月から開始されています。医学教育企画室に感謝しています。医師国家試験の成績向上にも効果があると期待しています。その他、同窓会には、教員のFDや医師国家試験模試の支援など積極的に取り組んで頂いており、感謝いたします。

第2に、大学病院での初期臨床研修医が少なく残念に思っていたのですが、「沖縄クリニカルシミュレーションセンター」の完成により、昨年度はフルマッチで、来年は定員が35名になると聞いています。病院長はじめ全教職員の努力の賜物と考えています。研究倫理の問題は、副指導員制度や倫理教育の実施など学務および教務委員会を中心に対応して頂き、感謝しています。私の最後の仕事は、文科省の大学改革実行プランにおける「**ミッシ**

私がこれまで訴えて来た「沖縄における医学部、大学病院の存在意義は何か、役割は何か」と一致していましたので、沖縄の強み、特色を活かした役割を考えること、そして教育、研究の充実、特に基礎系の活性化を図ることにつなげることでした。医学部の文科省からのヒヤリングは一回でパスし、現在松下新医学部長を中心に改革に取り組まれています。病院再開発や保健学科のミッションはこれからです。期待しております。

この4月から、大城新学長になり、理事・副学長（病院・地域医療担当）に就任致しました。臨床の好きな私に取っては苦渋の選択でしたが、しばらく教授併任をさせて頂いております。理事・副学長としては、大城学長の下、「**琉大創世プラン**」が掲げられておりますが、琉球大学が「教育力」、「研究力」、「学生力」、「地域力」、「国際力」、「組織力」、「自律力」を創造・発揮し、アジア・太平洋地域に輝くLand Grant Universityとして大いに発展することを少しでも支援できればと考えています。「沖縄県における琉球大学の存在意義は何か、役割は何か」をもう一度考える必要が有ると思っています。病院・地域医療担当としては、大学病院の再開発が最重要課題ですが、幸いこれまでの皆さんの努力により、県、県医師会、県立病院、民間病院と大学病院とが一体と成って連携し、質の高い医師の育成など良い方向に進んでいます。All Okinawaとして、完結型医療を目指し、地域医療のさらなる充実に貢献できるよう決意を新たにしているところです。会員の皆様からのご意見、ご指導をお願いします。

最後に、同窓会会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念します。